

主な出来事

セネガル

(内政)

- 10日、ダカール市長選の野党連合統一候補ジャス氏が、有罪判決を受けた事件に関し控訴院へ召喚され、野党支持者がデモを実施。ダカール市内の一部で警察当局等との衝突が発生し、数名が負傷したほか、ジャス氏、ソンコ PASTEF 党首等 3 名が公序を乱した容疑で逮捕され、同日釈放された。(11日 Le Quotidien 他)
- 24日の閣議で、サル大統領が 2019 年に廃止した首相職を復活すべく憲法を改正する意向を発表した。憲法改正案は、12月15日までに国民議会の緊急議題として採決に付される予定。(25日 Le Quotidien 他)

(外政)

- 19～20日、ブリンケン米 국무長官がセネガルを訪問し、サル大統領表敬、タル外相との会談、ホットゥ経済相との米企業 4 社による道路インフラ・公共安全分野の MoU4 件(総額約 10 億ドル)署名式立ち会い、パスツール研究所訪問等を行なった。(22日 Le Soleil 他)
- 28～30日に開催された第 8 回 FOCAC 閣僚会合で、サル大統領、習国家主席、南ア大統領を含む数名の首脳等がオンライン・スピーチを実施し、アフリカへの 10 億回分のワクチン追加供与を含む新時代の中国・アフリカ協力「9つのプロジェクト」が発表された。また、サル大統領は、コロナのオミクロン株の発生を受け、南アを含む南部アフリカ諸国に対し国境を閉じることはないと言明した。(30日 Walf Quotidien 他)

ガーボベルデ

- 9日、カーボベルデ大統領就任式が行われ、セネガル、ポルトガル、アンゴラ、ガーナ、ギニアビサウの大統領、CPLP 事務局長等が出席した。ネーヴェス新大統領が演説を行い、コロナ禍の社会・経済の立て直しを最優先課題として強調した。(9日 Inforpress)

ガンビア

- 6日、独立選挙管理委員会の審査を経てガンビア大統領選挙の候補者 6 名が確定。12月4日の投票日に向け、各候補者が選挙戦を展開。

ギニアビサウ

- 14日以来、ビサウ国際空港に留め置かれているエアバス A340 号機を巡ってエンバロ大統領とナビアム首相の関係悪化が表面化していたが、17日に招集された国務院で同大統領は議会解散を提案し、国務院が各政党及び各機関と協議した上で再度国務院を招集するよう勧告した。(17日 VOA)
- 22日、バルボザ外相は在ギニアビサウ中国大使と「一帯一路」に関する覚書を締結した。(22日 Lusa)

- ・文中の「コロナ」とは特別な記載がない限り、「新型コロナウイルス」のことを指すこととする。
- ・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 10月30日、ジャムニャジョの国立がんセンターの定礎式に出席したサル大統領が、大学やスタジアム等への入場に関する衛生パス導入の可能性を示唆した。(2日 Sud Quotidien 他)
- ワクチン接種希望者の不足により9月に12,730回分の期限切れのAZ製ワクチンが廃棄され、10月には89,110回分のAZ製ワクチンが期限を迎えた。(3日 Walf Quotidien)
- 10日、ダカール市長選の野党連合統一候補ジャス氏が、有罪判決を受けた事件に関し控訴院へ召喚され、野党支持者がデモを実施。ダカール市内の一部で警察当局等との衝突が発生し、数名が負傷したほか、ジャス氏、ソコPASTEF党首等3名が公序を乱した容疑で逮捕され、同日釈放された。(11日 Le Quotidien 他)
- 16日、文化省次官は、欧米各国の美術館が保有するセネガルの文化財返還のための特別委員会を設置した。同委員会は文化財の目録を作成し、第一段階として、仏、英国、ポルトガル、スペイン、ベルギーが保有する文化財の返還を目指す。(16日 APS)
- 24日の閣議で、サル大統領が2019年に廃止した首相職を復活すべく憲法を改正する意向を発表した。憲法改正案は、12月15日までに国民議会の緊急議題として採決に付される予定。(25日 Le Quotidien 他)
- セネガル軍は25日、11月初頭からジガンシオール州ウスイで安全化作戦を実行中であり、村民の帰還・社会的・経済的活動の再開が可能となったと明かした。(25日 APS)
- 26日、セネガル入国条件が再度変更。セネガルのワクチン証明書を承認していない国からの渡航者は陰性証明書の事前取得・提示が必要となった。(26日 セネガル政府)

(外政)

二国間関連

- 10月31日、UAE外相がセネガルを訪問し、サル大統領を表敬。セネガル新興計画(PSE)への支援を含む両国経済関係の強化につき議論した。(10月30日～11月1日 Le Soleil、2日 タル外相 Twitter)
- 4日、中国がセネガルに対し500,000回分のワクチンを供与することが発表された。(2日 Le Soleil 他)
- 6日、タル外相とセネガル訪問中のインド・アフリカ担当相が主導してセネガル・インド協力合同委員会が開催された。(6・7日 Le Soleil)
- 7日、サル大統領はECOWAS臨時首脳会合(於:アクラ)に出席し、マリ・ギニア情勢に関するECOWASによる決定(ギニアのクーデター首謀者や「暫定政権」関係者等の資産凍結や渡航禁止等の制裁、6か月以内の選挙実施の要請等)を歓迎した。(7日 サル大統領 Twitter、8日 APS)
- 9日、サル大統領夫妻は、カーボベルデのネーヴェス大統領就任式に出席した。(10日 APS)
- 11～12日、サル大統領は第4回パリ平和フォーラムに参加、開発途上国の資金調達に関するパネル等に出席したほか、テドロスWHO事務局長等と会談した。(12日、13・14日 Le Soleil、12日 サル大統領 Twitter)。
- 19～20日、プリンケン米務長官がセネガルを訪問し、サル大統領表敬、タル外相会談及び共同記者会見、ホットゥ経済相との米企業4社による道路インフラ・公共安全分野のMoU4件(総額約10億ドル)署名式立ち会い、パスツール研究所訪問等を行なった。(22日 Le Soleil 他)
- 28～30日に開催された第8回FOCAC閣僚会合で、サル大統領、習国家主席、南ア大統領を含む数名の首脳等がオンライン・スピーチを実施し、アフリカへの10億回分のワクチン追加供与を含む

新時代の中国・アフリカ協力「9つのプロジェクト」が発表された。また、サル大統領は、コロナのオミクロン株の発生を受け、南アを含む南部アフリカ諸国に対し国境を閉じることはないと言った。(30日 Walf Quotidien 他)

- 28日、タル外相はダカール訪問中の王毅・中国外交部長と会談し、中国がこれまで農業・保健・水・文化・インフラ等の分野で約1兆2000億FCFAの開発支援を透明性を持って実施してきた旨述べ、強固な二国間関係をアピールし、「一つの中国」原則への支持を表明した。(28日 APS)

国際情勢・国連機関支援等

- 17日、IAEA事務局長が当地を訪問、サル大統領及びタル外相を表敬し、アフリカにおける癌対策等について協議したほか、パスツール研究所(レントゲン機材等)を視察。(17日 タル外相 Twitter、18日 APS)
- 19日、国連砂漠化対処条約(UNCCD)チャウ事務局長がセネガルを訪問し、サル大統領及びタル外相を表敬。グレート・グリーン・ウォール計画の進展状況等について協議。(20・21日 Le Soleil)

日本関連

- 10月28日、新井大使公邸で、25年以上にわたり日本の開発協力実施に貢献したチャム政府事務局技術協力局長に対する令和2年外務大臣表彰伝達式が開催された。(10月30日～11月1日 Le Soleil)
- 10月30日と31日、ダカールで柔道日本大使杯及び空手日本大使杯がそれぞれ開催され、日本大使杯2日には、新井大使公邸で、セネガル柔道連盟及びセネガル空手連盟への在外公館長表彰授賞式が開催された。(4日 Le Soleil)
- 11日、JICAが実施したセネガル川流域灌漑稲作生産性向上プロジェクト(PAPRIZ2)(2016年～2021年)の結果報告会が行われ、新井大使やバルデ農業・農村施設大臣が参加した。(12日 Le Soleil 他)
- 新井大使及び当地メディアによるPAPRIZ2現場視察の報告記事(15日 Le Soleil 他)
- 23日、ダカール市内国立保健医療・社会開発学校で、無償資金協力事業「母子保健実習センター建設計画」の起工式が行われ、新井大使とサル保健大臣が出席した。(24日 Le Soleil)

(経済)

- 4日、ンジャイ手工業大臣は、関係部局がインフォーマル経済のフォーマル化に向けた統合国家戦略の策定に取り組んでおり、社会保障や税務登録等8分野に重点的に注力する構想を立てていると明かした。(4日 APS)
- 労働条件改善を求める製パン業界のストライキを受け、サル大統領は17日の閣議で、月末までに製粉所の競争力向上計画を策定するよう関係閣僚に指示を出した。(18日 APS)

(社会)

- 3日、仏ゴンクール賞が、セネガル出身のモハメド・ムガール・サル氏の「人間がもっとも明かさない秘密(La Plus secrète mémoire des hommes)」に授与された。(3日 France24 他)

カーボベルデ

- 10月28日、韓国がカーボベルデにUNICEFを通じて新型コロナ対策用のマスク等を供与。(28日カーボベルデ政府)
- 2日、COP26に参加したシルヴァ首相は、小島嶼開発途上国やアフリカの特異性等について演説。

- 英国訪問中、スロベニア大統領、アフリカ開発銀行総裁、国連アフリカ経済委員会委員長等と会談。英国訪問後、ポルトガルを訪問してポルトガル首相と会談した。(1-3日 カーボベルデ政府)
- 4日、アンゴラ運輸大臣がカーボベルデを訪問し、二国間の交通網に関する協力を確認した。(4日 Inforpress)
- 9日、カーボベルデ大統領就任式が行われ、セネガル、ポルトガル、アンゴラ、ガーナ、ギニアビサウの大統領、GPLP 事務局長等が出席した。ネーヴェス新大統領が演説を行い、コロナ禍の社会・経済の立て直しを最優先課題として強調した。(9日 Inforpress)
- 19日、カーボベルデ政府は駐ナイジェリア大使館兼 ECOWAS 代表部を開設。開設式にはコレイア・エ・シルヴァ首相、ソアレシュ外相等が立ち会った。(19日 カーボベルデ政府)

ガンビア

- 6日、独立選挙管理委員会の審査を経てガンビア大統領選挙の候補者6名が確定した(選挙期間: 11月9日~12月2日)。(8日 The Point)
- 5日、ガンビアは中国との間で12億ダラシに上る経済協力無償支援に合意した。(17日 The Point)
- 11日、米国は、ガンビア政府の民主化、法の支配及びガバナンス強化を支援するため、5年間で790万ドルの支援を表明。(11日 The Point)
- 19日、米国は、ガンビア国内の電力供給網を整備するため、2500万ドルの支援を表明した。(19日 The Point)
- 25日、真実和解賠償委員会(TRRC)は、ガンビア国民に忍耐と寛容を呼びかけるとともに、ジャメ前大統領による人権侵害の犠牲者への正義を約束した最終報告書をバロウ大統領に手交。これを受けバロウ大統領は、6か月以内に適切な行動をとることを確約。(26日 The Point)

ギニアビサウ

- エンバロ大統領は、1日にCOP26(於: グラスゴー)に出席し、気候変動対策の資金援助の枠組み整備を国際社会に呼びかけ、7日、マリ・ギニア情勢に関するECOWAS 臨時首脳会合(於: ガーナ)に参加、9日にはカーボベルデ大統領就任式に参加した。(1-9日 政府広報)
- 4日、サウジアラビア・アフリカ情勢担当大臣がギニアビサウを訪問し、大統領、首相、外相等と会談。政治・経済・技術協力等の分野で二国間協力協定に署名した。(4日 政府広報)
- 16日、エンバロ大統領は、ギニアビサウ独立記念式典及び国軍創立記念日式典で演説。同式典にはサル・セネガル大統領、ウエア・リベリア大統領、ベアヴォギ・ギニア首相等が参加。(17日 Le Soleil)
- 14日以来、ビサウ国際空港に留め置かれているエアバス A340 号機を巡ってエンバロ大統領とナビアム首相の関係悪化が表面化していたが、報道によれば、17日に招集された国務院で同大統領は議会解散を提案し、国務院が各政党及び各機関と協議した上で再度国務院を招集するよう勧告した。(17日 VOA)
- 22日、バルボザ外相は駐ギニアビサウ中国大使と「一帯一路」に関する覚書を締結した。(22日 Lusa)

(注) 本報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)